

ブックスタートとその後の支援の利用が乳幼児の保護者に与える効果

八木 友美

ブックスタートは 0 歳児検診などの機会を利用して、地域に生まれたすべての赤ちゃん
と保護者を対象に、絵本を手渡すという活動である。これまでの研究によれば、ブックス
タート経験によって図書館利用や読み聞かせが増えたなど、保護者の行動に変化があり、
子どもの育ちに少なからず影響を与えることが示唆されている。また、ブックスタートの
課題として、ブックスタートによって保護者や赤ちゃんが本に興味を持ってもその後の支
援がなければブックスタートの効果一時的なもので終わることが指摘されている。しかし、
これまでの研究ではブックスタートの影響についてしか直接尋ねておらず、報告されてき
た結果は、ブックスタートと保護者への読書活動支援の両方の利用による影響の結果であ
る可能性も考えられる。

そこで、本研究では、第 1 の目的としてブックスタート自体の保護者の絵本に対する興
味・理解、認知、関心への影響が見られるのか検討した。第 2 の目的として、ブックス
タートとその後の家庭への支援の両方の利用によって保護者の絵本に対する興味・理解、認
知、関心への影響が見られるのか検討した。

本研究では、予備調査として茨城県内の市のブックスタートの実施状況を調査した。予
備調査の結果、茨城県内の市全 44 市中、32 市がブックスタートを実施しており、最も多く
実施されている時期は 3~4 か月健診の時であることが示された。そこで本調査の対象は、
3~4 か月健診時にブックスタートを実施している市からランダムに 3 市、ブックスタート
未実施の 3 市を選出し、計 6 市を対象とした。そして、対象の市の保育施設に依頼し、協
力を得た園を通して 0~1 歳の子どもがいる保護者に質問紙調査を行い、260 人(23 園、回収
率 48.3%)の保護者の回答を得た。質問紙はブックスタート実施、未実施共通の項目として、
保護者の絵本に対する態度について問うものと、子育てや子どもの読書のための支援やサ
ービスの利用について問うものから構成し、共通項目への回答を実施・未実施群間で比較
することにより、2 つの目的について検討を行った。

分析の結果、目的 1 のブックスタートの影響については、ブックスタート経験の有無に
よって絵本に対する興味・理解、認知、感情について有意な差が見られず、ブックスター
トのみでは保護者の絵本に対する興味・理解、認知の側面に効果が見られないことが示さ
れた。目的 2 のブックスタート経験の有無とその後の支援の両方の影響について検討した
結果、実施群では利用高群・低群で認知の得点に差が見られた。したがって、本研究では、
ブックスタート経験があり、その後の支援やサービスの利用がより多い場合には、絵本へ
の認知に対する効果があることなどが示唆された。

(指導教員 鈴木佳苗)